

特許紹介

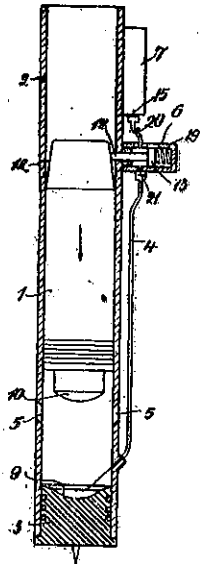
第28巻第7號 昭和17年7月

ディーゼル杭打機

(特許第149507號 發明者 コンラート・ハーゲ 特許權者 デールマーク・マシーネン・ファブリーク・ライオンホルド・ドルンフエルト)

杭打機の撞槌がディーゼル内燃機関のピストン又はシリンダーを構成し、爆發によつて打撃せられ次に衝擊する爲に再び落下する所謂ディーゼル杭打機に於ては、撞槌が行ふ機關の燃焼室内に設けられた皿状凹部の衝擊を豫め此凹部に注入せる燃料を霧化するのに利用する事が出来る。而して斯くして高壓噴射噴筒を節約する事が出来るのであるが、従來のものに於ては、皿状凹部に燃料を撞槌の上昇中に充填する爲に、強き渦流を生じ此爲に尙霧散しない燃料が利用せられないで驅逐せられ一部排氣口を通つて失はれ、霧散状態を不規則ならしめ、従つて撞槌の作動行程を不均等ならしめる缺點がある。叙上の缺點は、此の

圖-1.



發明に依り除去し得るものである。即ち衝擊ピストン(1)の衝突する衝擊塊(3)の面を衝擊ピストンの衝擊面(10)の彎曲に相當して盆形に構成する(圖-1)。此盆形に向かへる燃料導管(20)には、衝擊ピストンの圓錐面(18)に依つて制御せられる定量供給噴筒(6)を装置し、燃料の流入を衝擊ピストンが排氣口(5)に接近する時に初めて許すやうにしたものである。斯くすれば、燃料を噴射するに高壓を必要としないのみならず、燃料は正しく鍋状凹部に達して一様に規則的に霧散せしめられる。

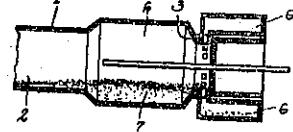
珪酸三石灰を多量に含有するポルトランドセメント製造法

(特許第140859號 發明者 吉井豊徳丸 特許權者 秩父セメント株式会社)

ポルトランドセメントの組成成分中最も重要なる珪酸三石灰を多量に含有する優良なるポルトランドセメントを製造せんが爲に考案したものである。

ポルトランド焼成窯に於ける焼成帯を通過生成した焼塊を冷却するに當り、1150°C迄降下せしめるのに特に30分以上約24時間以内経過せしめて徐々に冷却し、次いで急冷し、以て其間に珪酸三石灰を多量に生成せしめる方法である。圖-2は、通常のエニアクシアル型廻轉窯に徐冷手段を講じたものを示す。

圖-2.



即ち窯(1)の焼成帯(2)より下方部分を延長擴大すると共に下端口邊にダム(3)を設けて徐冷帯(4)を構成し、焼結後冷却筒(6)に流入する以前に焼塊(7)をして徐冷帯(4)に所要時間滞留せしめて徐冷するものである。

(附) 登録實用新案

二重水門の漏水止め装置

(登録第308852號 公布昭和16年9月28日 監公報 考案者 廣富一十 實用新案審査 東京石川島造船所)

圖-3, 4. 上下2板に分割して各別に順次に昇降し得るやうにした二重水門扉に於て、其の内側全周に對し漏水を防止するやうにしたもの。下部門扉(2)の兩端より遮水板(13)を垂直上方に突出して水面以上に達せしめる。遮水板の兩側縁並に下部門扉の上縁に沿つて軟質ゴム條帶(15)(16)を取り付け、其の遊端を一方に於ては上部門扉(1)に他方に於ては溝(3)の側壁に對し水壓に依り壓接するやうに設けたもので、漏水止めを確實ならしめると共に、遮水板の爲め下部門扉の兩側滑車が浸水する事なき故に綱索の腐蝕を防止する。

圖-3.

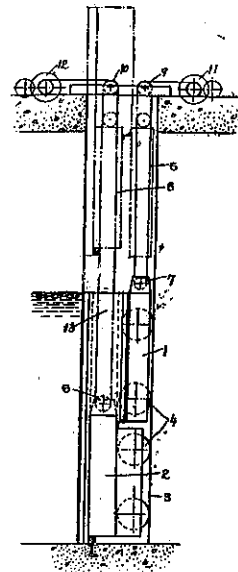
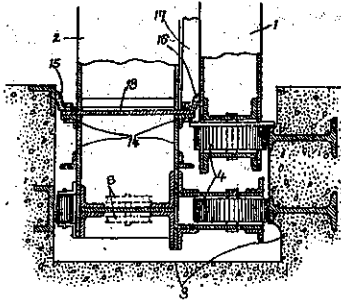


圖-4.



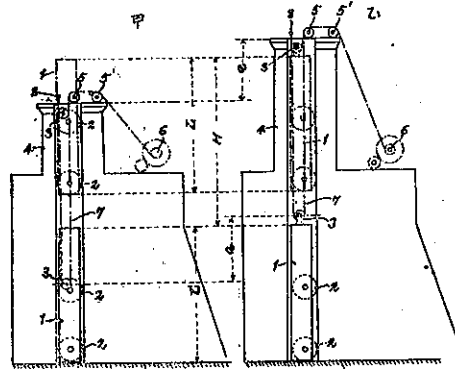
し支柱 (17) を固着して把手を補強したものである。

低側柱水門

(登録第 310038 號 公告昭和 16 年第 12889 號公報)
考案者 三原久吉 實用新案權者 田崎以作所

本考案は、扉體 (1) の吊滑車 (3) を既知の如く扉の上端附近に設ける代りに、扉の所定揚高に對し許容範圍に於て低下して扉に附設し、其の低下せる距離に略等しく水門側柱 (4) の高さを短縮し、扉を所定揚高迄吊り揚

圖-7. 甲 本考案に依る水門
乙 普通の水門



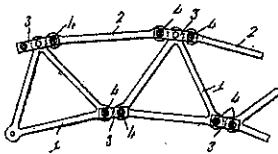
げた場合、側柱上に定設せる誘導滑車 (5) を超過上昇し得るやうに設けたもの (圖-7)。水門側柱の費用を著しく節減し得る利點がある。

彎曲屋根骨組

(登録第 300185 號 公告昭和 16 年第 11277 號公報)
考案者 駒田勝長 實用新案權者 熊本直三郎

圖-5 に示す如き構造を用ふるもので、連杆 (2) の長さを選擲する事に依り容易に任意の彎曲を得られ、又組立解體共に容易である。

圖-5.

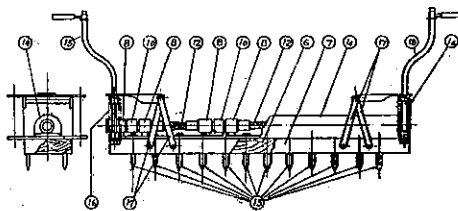


平面振動機

(登録第 309784 號 公告昭和 15 年第 9937 號公報)
考案者 (實用新案權者) 玉田英成

主として道路舗装用に用ふるものである (圖-6 参照)。振動盤 (5) は或る寸度を有する木材 (6) を鐵板 (7) を以て木材の底部より側面四方に被覆する。木材 (6) の上部表面に 2 個を以て一組となる數組の軸承 (8) を適當の位置に配置する。各組の軸承 (8) の軸 (11) に偏心重錘 (10) を固着し、各組の軸承は可撓接手 (12) を以て連結せられた振動機構を Π 狀鐵板 (14) を以て被覆して萬一の危險を防止する。振動盤 (5) の兩端に作業用把手 (15) を固着し、其下部にスプリング (16) を裝置

圖-6.

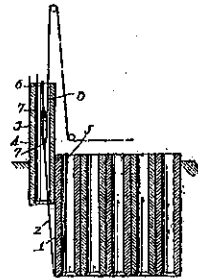


井筒沈下用加壓裝置

(登録第 310322 號 公告昭和 16 年第 9923 號公報)
考案者 (實用新案權者) 加藤繁一

圖-8。ロープ (8) を捲き取る事に依り既に沈下せしめた井筒 (1) の抵抗により井筒 (3) を簡単に沈下せしめんとするもの。圖中 (5) 及 (6) は夫々井筒 (1) 及 (3) の上端に引掛けた鉤片を、(7) (7) は滑車裝置を示す。

圖-8.

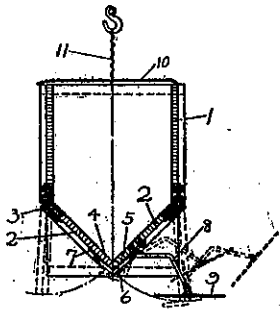


自動底開水中コンクリート函

(登録第 311014 號 公告昭和 16 年第 11014 號公報)
考案者 坂根 保 (實用新案權者) 飯道大伝

圖-9。容器 (1) の相對する側板の一部 (2) (2) を蝶番 (3) (3) により開閉自在とし、且其の下縁 (4) (5) を函の

圖-9.



中心線上に於て閉合せしめ、掛金(6)(7)により繋止して容器の底を構成する。掛金の一端(8)は之を器底下に突出させ、容器が水底に到達せる時、底を自動的に開くと同時に底板(2)(2)がコンクリート放出場の周囲を

圍む側壁の一部を構成して水に依る攪拌を防止するやうにしたもの。圖-10 は其作用を示す。

圖-10.

